

# 甲子園の感動を

# ありがとう。

いまだ余韻の残る、甲子園での花巻東ファイバー  
 ―。今夏の甲子園（第91回全国高等学校野球選手権大会）で見た、ひた向きな全力疾走や苦しい展開での笑顔など、はつらつとしたプレーで日本中に感動を与えた花巻東高校野球部。県勢90年振りのベスト4進出で県内に明るい話題を届け、県民栄誉賞の授与も決定しました。県民の「誇り」とも言えるこのチームで、甲子園メンバーとして素晴らしい活躍を見せてくれた、市内中学校出身の3選手がいます。ここでは、親元を離れて野球に打ち込む日々を続け、甲子園に確かな足跡を残したその3選手に、大会を振り返ってもらいます。

## ■花巻東高3年・佐藤隆二郎君

（東水沢中出身・右翼手）

―結果はベスト4で、監督さんを胸上げできなく残念だったが、本当に良いチームで、良い指導者にも恵まれて、連日満員の甲子園で試合ができて幸せに思う。大会では準々決勝の半分・明豊戦が思い出に残っている。試合結果だけでなく、試合に対する姿勢が良かった。練習中は厳しいが練習外では本当に仲が良く、互いに信頼できている

ということを出せた。

「苦しいときこそ笑顔や声を出す」。

このことは野球だけでなく、今後の人生でも生かしていきたい。

甲子園の結果は県民や奥州市民の皆さんの声援があったからこそ。

出場が決まった国体は、再び日本一になるチャンスなので、もう一度チームを引き締めて、日本一を目指したい。

## ■花巻東高2年・佐々木大樹君

（水沢中出身・左翼手、三塁手）

―思い出に残っている試合は、終盤に逆転3点2塁打を打つことができた、一回戦の長崎日大戦。甘い球だったので、フルスイングで思い切り振り抜きました。

先輩たちとは、1年ちよつと野球を一緒にやらせていただいて、たくさんのことを学ばせてもらいました。学んだことを生かし、来年の日本一を目指します。県民の方々、奥州市民の方々に支えられている結果。応援していただけて感謝しています。

## ■花巻東高2年・渡辺宗真君

（水沢中出身・投手）

―思い出に残っているのは準決勝の中京大中京戦。点差をつけられていたが、全員がきらめることなくチーム一丸となって戦うことができた。ベスト4は奥州市民や県民の方々が一丸となって応援していただけたおかげです。

先輩たちが日本一を託してくれたので、先輩たちから学んだことを生かし、岩手の歴史を変えられるよう、来年は必ず日本一を目指します。

※3選手のほかに胆江管内出身者として、金ヶ崎中出身の横倉怜武君（3年一塁手）と柴田貴博君（3年三塁手）も、メンバーとして活躍を見せました。



〔写真・右から、渡辺宗真君、佐藤隆二郎君、佐々木大樹君〕



写真はともに夏の県大会・盛岡中央高戦での1コマ。

〔写真上〕バッターボックスに入る、佐々木大樹選手

〔写真下〕笑顔の佐々木選手とタッチを交わしながら代走で試合に入る佐藤隆二郎選手（背番号9）